

舞洲 24 時間リレーマラソン

舞洲 24 時間リレーマラソンが 7 月 16～17 日に開催されました。今年は三商戦と日程が重なったため、現役部員はレセプションが終わってから駆け付けたようです。24 時間内に何周できるかを競い 1.4K のコースを最大 18 名で延々とリレーしていくという、とんでもない大会にもかかわらず、毎年エントリー開始と同時に定員オーバーで締切りになるという超人気の大会でもあります。

総合成績(参加数211チーム)

チーム名	周回数	順位	メンバー
カメカメ大行進A	281 [219]	8位 [12位]	矢野 猛(27) 阿賀康生(64) 勤務先の皆さん及びご家族
†聖薔薇十字騎士団† (若手OB+現役)	268 {241}	11位 [4位]	東 達也(61) 黒島康平(61) 山西琢文(61) 笹田大祐(62) 嶋田 凌(62) 日比鷹平(62) 岡野達哉(63) 野喜崇裕(63) 山口康樹(63) 吉村浩気(63) 成瀬 亮(65) 藤森郁実(65) 丸岡克成(65) 坂元亮介(66) 澤田将希(66) 濱野 拳(66) 藤原千鶴(66) 佐藤 匠(68) 根本夏生(68) 平井大誠(68) 宮本一輝(68) (サポートメンバーを含む)
KUT&FOB (中堅OB)	226 [204]	34位 [17位]	浅野孝文(50) 定塚一人(41) 前田忠久(42) 藤川和彦(42) 三村義雄(42) 藤原孝洋(43) 松村英治(43) 細川泰宏(43) 田中秀明(44) 伊藤伸朗(48) 武林周一郎(51) 上島啓之(52)

[]内昨年 注) 昨年は台風の影響でスタートが遅れ19時間の結果

以下、それぞれのチームからの報告です。

カメカメ大行進A

新 27 矢野は、10 位入賞を目指している会社の職場チーム(カメカメ大行進)で参加しました。今年は新 64 阿賀君が入社して戦力アップ。研修で熊本に派遣され、出場が危ぶまれましたが、なんとかフェリーで帰阪でき大活躍！中心メンバーの息子さん達(高校生と浪人)も参加して、年齢構成は10代から60代までという凸凹チームですが、熱い想いをひとつにして熾烈な 10 位争いから抜け出し、久々の 8 位入賞を果たしました。



KUT&FOB

新 50 浅野から報告します。今年は直前に欠席者が出たため、エントリーした 15 名の内 12 名で参加しました。テントサイトがぬかるみだったため、レース前には全員でスポンジで水を出す必要があり、準備運動も十分できないままスタートとなりました。昨年は 19 時間のレースであったため、2 年ぶりに 24 時間フルで走ることに不安がありましたが、気温が比較的涼しく、太陽もほとんど出なかったことから、全員怪我なく無事に完走することができました。年齢層が高まってきたこともあり、順位へのこだわりは小さくなりましたが、結果 34 位と比較的上位でゴールとなりました。食事の量やタイミング、夜間の走行方法など、長年の経験値が活かされた大会だったと思います。

† 聖薔薇十字騎士団 †

新63回の野喜です。拙文ながら本年度の24時間リレーマラソンのご報告をさせていただきます。昨年度に続き、新62回の嶋田さんが中心となってメンバーが集まり「†聖薔薇十字騎士団†」というチーム名で大会に参加しました。本年度は日程が三商戦と重なったため、12時のスタートから現役選手が合流する22時までの約10時間をOB8名のみで凌がねばならないという厳しい状況でした。

そういった事情から事前には、昨年のような順位狙いの走りはせず各自無理のないペースで楽しみながら走ろうという話になっていました。しかしレースが始まると先頭の嶋田さんの快走を皮切りに皆の闘争心に火がついてしまい、

OB8名のリレーで暫定12位を維持するという予想外の展開となりました(昨年度は現役生9名、OB6名の計15名のチームで4位でした)。一方で、炎天下でのハイペースと少人数でのローテーションにより皆の体力は次第に奪われていき、日が沈む頃には運動不足の体が悲鳴をあげ始めていました。

そんな中で22時頃に現役生が合流し、すぐに彼らにも襷が渡りました。三商戦の後にもかかわらず、10名もの選手と2名のマネージャーが駆けつけてくれました。早朝の準備から日中の試合、夜のレセプションを終えて直接舞洲にやってくる現役生たちもどんなに疲れていただろうと思います。それでも、これも若さの為せる業でしょうか、皆力強い走りを見せてくれました。

現役選手たちの力走もあり、翌朝には11位のチームとの差が詰まってきていました。一方でOBに脱落者が出始めるなど、皆の疲労もピークに達していました。しかし現役選手を中心に猛烈な追い上げを見せ、最後の1時間で11位に浮上してフィニッシュしました。入賞圏の10位には惜しくも届きませんでしたが、昨年よりも厳しい条件の中で十分健闘したと思います。

今回の大会の中で痛感したことは、私達には今でも陸上選手の血が流れているということです。ゆっくり走りながら楽しもうと言っていた人間たちが、どうしてレースが始まった途端に皆自分を追い込むような真似をしてしまったのでしょうか。現役生の丸岡が笑いながら口にした「OBの皆さん、なんでそんなに頑張ってるんですか」という言葉が強く印象に残っています。確かに彼の言う通りです。もはや選手ではない我々OBが何のためにこんなにしんどい思いをして、必死になって走っているのかと改めて考えさせられました。

私自身、今回のリレーマラソンのために真剣に準備をしてきたわけではありませんでしたが、走っている時の血がたぎるような感覚、襷を受け渡す時の一体感、走り切った時の充実感といったものは選手時代に感じたのと似たものでした。私達が走ることとなるといつい本気になってしまうのは、今もそういった刺激的な感覚を心のどこかで求めているからではないかと思います。

これを読んでいらっしゃる皆様も、数年前、数十年前には陸上競技部に身を置き、日々励まれていたことと思います。今現在は陸上競技から離れていらっしゃる方も多いでしょうが、そういう方にこそ今一度走・跳・投にチャレンジして頂きたいと私は思います。今回の私達のように刺激的な体験をすることで、少しでも多くの方に体を動かすことの意義を見つめ直して頂ければ幸いです。

最後になりますが、無事大会を終えることができ、まずはOB・現役生への声掛けやエントリー等の準備をお一人で下さった新62回の嶋田さんに心より感謝申し上げます。また病後間もないにもかかわらず終始サポートに徹して下さい、同じく新62回の日比さんのご厚意にも深く感謝しています。そして試合後にもかかわらず駆けつけて下さった現役生の皆さん、本当にありがとうございました。



11位でフィニッシュした新65回成瀬

